校長室より　　第１２号

「天空高き」

平成２２年１１月１５日

あいさつ運動週間！

１１月８日より生徒会を中心に挨拶運動が展開中です。

挨拶という漢字は難しいですね。

最近になって、はじめて「挨拶」は禅宗からきている言葉だと知りました。

挨拶の“挨”という字は“開く”という意味で、“拶”という字は“交わる”という意味があるそうです。つまり挨拶するということは、まず自分自身の心を開き、同時に相手の開かれた心との交わりによって、お互いに心を通わせ合い、理解し合うことなのです。だから、「挨拶を言う」とはいわず、「挨拶をする」といいます。本校は、この挨拶をとても大切にしています。

私は時々校門の前に立って挨拶運動を私なりにしています。朝一番に、お互いに元気よく「おはようございます。」と声を掛け合う。今日一日が明るくスタートすると思いませんか。ニコッとした表情ならもっと元気になります。私は学校中が元気よく挨拶が響き渡っていることを願っています。

グローバル化と英語力！

グローバル化が始まったのはいつからだと思いますか？その前に、グローバル化とはどういう意味なのか皆さんは知っていますか。

よく、これと同じような言葉で国際化（ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾘｾﾞｰｼｮﾝ、internationalization）という言葉が使われます。国際化は、ネーション（nation：国）とネーションを結ぶという意味です。ですから国が基本です。これに対してグローバル化は、まさにグローブ（globe：地球）が一体化する、ボーダーレス（国境がなくなる）の世界です。

そのグローバル化が始まったのは今からおよそ二十年前頃です。１９８９年にベルリンの壁が、１９９１年にソビエト連邦が崩壊しましたが、ここが一つの起点だと言われています。

また、グローバル化を支える要因の一つにＩＴ(情報機器)革命も挙げられます。ＩＴ化によって、時差もなくなり、国境も低くなり、世界が急速に狭まりました。

グローバル化に伴い、人、お金、物、情報が自由に国境を越えて移動しはじめます。自分と異なる文化、歴史、価値感をもつ人々と接する機会が飛躍的に多くなります。彼らと共存していくためには彼らの文化、伝統や価値観について理解を深め、尊重し、受け入れる寛容さが大切です。と、同時に自国や地域の文化、伝統や歴史についても深く理解することが重要です。そして、コミュニケーションツール（伝達手段）として英語力が求められるということは事実です。早い時期からの英語学習が必要です。21 世紀を担う皆さんには、自然に、聞く、話す、読む、書くの英語力を本校でしっかり身に付けてもらいたいですね。

読書の秋ですね

読書の秋です。図書館便り 10 月号で、平成 22 年度上期(4 月～10 月)の個人別貸出上位者１位がＳ３－３の女子で 218 冊。１日に２冊読んでいることになります。すごいですね！

ここで、ちょっと心温まる読書にまつわる新聞記事を紹介します。

> **立ち読みにまつわる最も美しい話―というのをエッセイストの鶴ヶ谷真一さんが書いている。19 世紀欧州のある街で、貧しい本好きの少年が毎日、書店のウインドーに飾られた一冊の本を眺めていた。読みたいけれどお金がない。**
>
> **ある日のこと、本のページが 1 枚めくられていた。翌日も 1 枚めくられていて、少年は続きを読んだ。そうして、毎日めくられていく本を、少年は何ヶ月もかかって読み終えることができたそうだ(『月光に書を読む』)。おとぎ話のような、書店の主の計らいである。・・・**
>
> **朝日新聞 11 月 3 日「天声人語」より**

朝の 10 分間読書、１日あたりは短いが、欧州の少年のように、何ヶ月もかけて一冊に食らいつけば素晴らしいですね。

私も朝の 10 分間読書で、いま「菜根譚(たん)」(洪自誠) という本を読んでいます。その中で“日々の行動について”にあった、印象に残った文章を紹介します。

小さなことにも手を抜かない

本当に立派な人物とはどのような人物か。

一、　小さなことにも手を抜かない。

二、　人が見ていようがいまいが、悪いことをしない。

三、　失意のどん底でも決して投げやりにならない。

この三つが守れる人のことだ。

私自身の自戒として紹介しました。

私が読書に目覚めたのは、高校１年生のときで、「檸檬」（梶井基次郎）をかじってからで、「どくとるマンボウシリーズ」（北杜夫）は愛読書の一つです。

高水高等学校付属中学校　校長　　前 田　茂 雄